

# 情報資料室からのお知らせ

2026年

2月号



## 新着図書の中から一部をご紹介します

### □ 福祉は誰のため?



竹端寛／著

筑摩書房

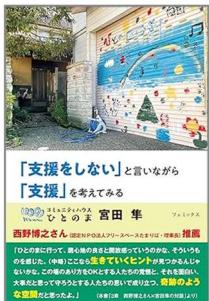
どういう価値観で私たちは生きているのか?それはどんな風に自分を追い詰めるのか?生き心地のよくなる価値観とは何か?福祉と社会の「あいだ」について考える。

### □ 発達障害の専門医が教える 子どもたちが学校に行けない本当の理由と解決法

宮尾益知／監修  
河出書房新社

小中学校の不登校児が30万人を超える今、様々な特性を持つ子どもたちへの対応や通いやすい環境づくりを、臨床経験豊富な発達障害専門医が教える。

### □ 「支援をしない」と言いながら 「支援」を考えてみる

宮田隼／著  
フェミックス

「誰でも来ていいよ」と一軒家を開放して、コミュニティハウス「ひとのま」をはじめて14年。ここに集う人たちとの〈日常〉を綴る。

### □ 家裁調査官、こころの森を歩く

高島聰子／著  
日本評論社

家庭裁判所では、令和の今、どんなことが起きているのか。こころの問題を扱う専門家・現役家裁調査官が現場のリアルを生き生きと伝える。

### □ 図解 介護のための口腔ケア（最新版）



菊谷武／著

講談社

口の力をいかに引き出すか。正しい口腔ケアと「食べる」を支える介助法がひと目でわかる。家庭や介護・医療現場で役立つ最新版。

### □ ネオ・ネグレクト 外注される子どもたち

矢野耕平／著  
祥伝社

「ネオ・ネグレクト」とは、「衣食住が満たされていても、親が子と向き合わず、子育てを過度に外注する状態」を指す。当事者・学校関係者への取材をもとに、その実態を明らかにする。

### □ 夫が「家で死ぬ」と決めた日

倉田真由美／著  
小学館

「自宅で最期を迎える」と本人が願いながら、その希望を受け入れられる家族はごくわずか。本書は、本人や家族が“後悔しない最期”を実現するためのノウハウに溢れている。

### □ ゆっくり歩く

小川公代／著  
医学書院

生と死のはざまで揺れる母や祖母について思いをめぐらせたエッセイであり、娘と母の「言葉のやりとり」を大きく取り上げたドキュメント。